

2025年度第2学期 客員教員ゼミ

教員と学生が互いに意見を交わしながら進めていく学生主役の授業です。

放送大学の正式な授業ではありませんので、単位の修得は出来ませんが、学生のみなさんと

教員の方々との交流を深め、孤立しがちな皆様の勉学の質を高めるために開催しています。

みなさんの積極的なご参加をお待ちしています！

田邊 秀二 先生 ①11/13(木)②11/27(木)③12/11(木)④1/15(木)⑤1/29(木)13:30～15:00

テーマ 化学分野の視点から環境問題を考える

このゼミでは、化学をベースとした環境問題を取り上げ、原因と解決策について議論します。学生本人で環境問題のテーマを選定し、調査した内容について毎回発表します。それぞれの環境問題について何が問題なのか、化学をベースとして議論しますので、高校から大学の化学の知識が必要で、その内容についても説明します。扱うテーマは、水環境、大気汚染、地球温暖化、エネルギー問題など様々です。テキストは特に準備しませんが、その都度必要なプリントは配布します。自身のテーマについて、パワーポイントを使って発表します。ご自身の PC で資料を作り、ゼミの時間に発表していただきます。これを毎回繰り返します。最終回でプレゼン資料が完成するように頑張りましょう。

藤村 誠 先生 ①11/21(金) ②11/28(金) ③12/5(金) ④12/12(金) 10:00～11:30

テーマ 画像処理プログラム入門

現在、デジタル画像処理技術の利用は一般的なものとなり、日常生活において様々な場面で接している。本ゼミでは、デジタル画像処理について、デジタル画像データの構造およびプログラムによる処理内容について学び、実際にプログラムを作成して実行結果を確認してみる。ゼミでは、画像処理アルゴリズムの説明の後に、持参したパソコンを用いて、Google Colab.上で画像処理ライブラリの OpenCV を利用した Python によるプログラムを作成し、実行する。

牧野 一穂 先生 ①12/3(水) ②12/10(水) ③12/17(水) ④12/24(水) 10:00～11:30

テーマ 鉛筆素描－自画像を描こう－

このゼミでは、鉛筆を用いた自画像素描に挑戦します。西洋古典絵画の伝統に基づく観察と表現技法を学び、光と影の捉え方、立体感の表現、プロポーションの把握などの基礎を身につけます。初心者の方でも安心してご参加いただけるよう、段階的な指導を行います。鏡を見ながら自分自身と向き合い、線と面の強弱や濃淡を使い分けることで単なる似顔絵を超えた芸術的表現を目指します。

受講者が当日用意する物 ①鉛筆素描用具一式（普段使われているもの）
②スケッチブック（A3 サイズ程度）
③鏡

深浦 厚之 先生 ①12/4(木) ②12/11(木) ③12/18(木) ④12/25(木) 9:30～11:00

テーマ プロジェクト X で見る日本社会の発展

2000 年に NHK で放送された人気番組「プロジェクト X」の中から 4 本を取り上げ、日本の経済発展とそ
の中で生み出されたハード・ソフトの新機軸について考えます。今日、私たちが何気なく送っている日常生活
が、数十年にわたる多くのドラマのある到達点であることを改めてかみしめたいと思います。

◆ 対 象 者： 長崎学習センター所属の学生(選科・科目履修生も参加できます)
名誉学生

◆ 受 講 料： 無料

◆ 定 員： 各ゼミ 10 名程度(複数ゼミ申込可)

◆ 実施会場： 長崎学習センター講義室

◆ 申込方法： Google フォーム(右図2次元コードより)
電話 ☎ :095-813-1317

◆ 申込期間： 9 月 28 日(日)～10 月 22 日(水)



※ 締切日を過ぎても受付可能な場合がありますのでお問い合わせください。
受講可否については、締切日以降、随時メールでお知らせします。

黒田 直敬 先生 ①12/10(水) ②12/17(水) ③12/24(水) ④1/7(水) 13:30～14:30

テーマ 麻薬・覚せい剤や違法薬物を測る

麻薬・覚せい剤や違法薬物はヒトの健康に深刻なダメージを与えるだけでなく、社会的にも大きな問題となっています。従って、薬物自体の測定はもとより、ヒトの体内からこれらを検出することは、当人の健康状態を知るうえで大変重要になってきます。また、法中毒学的な観点からも薬物の検出が必要になってきます。本講義では、これらの薬物の生体影響や血液、尿、毛髪などの生体試料分析法について講義します。

山下 敬彦 先生 ①1/31(土) ②2/7(土) ③2/21(土) ④2/28(土) ⑤3/7(土) 13:30～15:00

テーマ 研究報告・論文のまとめ方

実験の報告から研究論文まで、学術的な文章には基本のスタイルがあります。一度身につけると、授業の課題、実験・実習の報告書、卒業研究の報告書、学術論文など様々な学術的な文章に応用可能で、大変便利です。ゼミでは、このような学術的文章の基本のスタイルについて理解し、使えるようになることを目指します。特に、卒業研究等に活用してもらいたいので、卒業研究の報告書や修士論文の作成を前提とし、段階を踏んで解説します。

受講者が用意する教科書 木下是雄著、中公新書「理科系の作文技術」 924 円

内野 成美 先生 ①2/6(金) ②2/20(金) ③3/6(金) ④3/13(金) 10:00～11:00

テーマ 臨床心理学の視点から、子どもの世界を見てみましょう

現代は、VUCA(Volatility 変動性 Uncertainty 不確実性 Complexity 複雑性 Ambiguity 曖昧性)時代と言われています。先のことは分からない、自分では“これが当たり前”と思っていることでも他の人から見ると違うこともある。そのような時代に生きる子どもたちの課題とは何か、不登校・性に関する課題・家族関係・発達に関する課題などの視点から、子どもたちを取り巻く課題や強みになる点などについて、教員からの話題提供のあとにディスカッションができれば良いと思います。

大町 いづみ 先生 ①2/7(土) ②2/14(土) ③2/21(土) ④2/28(土) 14:00～15:00

テーマ 認知症について理解し予防について学びましょう

皆さんは「認知症」と聞いたらどのようなイメージが浮かびますか？先進国(35 か国中)において、認知症患者の割合が最も多いのは日本で、65 歳以上の5人に1人が認知症を発症することも予測されています。ゼミでは、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指すために、認知症について、正しく知り、予防する方法や対応策について、演習を交え一緒に考え、学んでいきます。